

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600102		
法人名	有限会社 ケアカンパニー		
事業所名	グループホーム ゆかい		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡12245番地6		
自己評価作成日	令和 5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年 6月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和5年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

より良いサービスを提供し、ご利用者様やご家族様にここの施設でよかったと、安心・満足していただけるようにサービスの向上を真剣に考えています。入居者様とのコミュニケーションを大事にして、レクレーションなどを楽しく生き生きとさせていただけるように、スタッフ一人一人が自信を持ち、体調変化など早期発見に努め、医療機関との連絡体制をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有料老人ホームが別敷地に併設し、オレンジ色の平屋建てのグループホームである。管理者は長年ホームに勤め、入居者や職員が快適にゆとりをもち、癒しの空間づくりに取り組んでいる。入居者と職員が体操や活動と一緒にいきいきと行い、明るく元気よく大きな声が聞こえてくる。緊急時の医療との体制も整えられている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月一回ミーティング・ケース会議を行い、運営理念を毎日の申し送りの時に職員と確認している。	理念を事務所へ掲示し、それを毎朝唱和している。入居者に対する言葉遣いや態度は意識して取り組んでいる。全体会議でも理念の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで地域の方とのお付き合いが出来ずにいる。	コロナにより現状、地域とのつきあいが少ない。しかし、近所の方から本の寄贈があったり、ごみ捨て時に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はできていないが、地域の公報などは毎月届けてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近年は、コロナの影響もあり 運営推進会議が開催できていないが、開催していた時は利用者様やそのご家族様に参加していただいていた。	令和3年11月よりコロナ感染予防のため、運営推進会議を開催できず、事務連絡にとどまっている。	コロナ感染予防のため、対面会議が難しい場合は、書面で運営推進会議のメンバーから意見をもらい、それをサービス向上に努めるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターに参加を促している。	市町からの入居の問い合わせや、ホームから市町へ報告したり、相談は行われ、よりよい関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	長時間の座など利用者様本人の負担にならないよう身体拘束のないケアに気配りをしています。	現在、身体拘束は行われていない。外部研修に参加し、ホーム内で共有することで、身体拘束のないケアについて理解し取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護の場面や職員の間で虐待にならないか検討しながら対応している。全体会議の場でも取り上げたりして、虐待防止につとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	プランに沿って支援していて、成年後見制度については利用発生時に説明し、理解して対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時や改定の時は書面にて説明している。 話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気づくりを心がけているが、どなたでも意見が言えるように意見箱の設置をしている。	玄関に意見箱を設置している。日頃の会話の中で入居者の要望や意見を聞くようにしている。また、現在、窓越し面会も始まり、管理者が家族からの意見や要望を聞き、それらを運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングで職員の意見、業務内容・改善点など、その都度、積極的に取り入れている。	毎月の会議の中や普段の業務の中で、管理者が職員に声をかけている。また、個別に意見や提案を確認し、それらを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のトラブルなど発生した時は、代表者が個々の面談を行ったりして対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの情報があれば、スタッフに情報提供し、気軽に利用してもらえるようにしている。研修会で学んだことを施設でも取り入れていきたい。 研修後は、研修報告書を作成し、記録する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加する機会を通して同業者と交流している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に不安などがあれば、話をしてその不安などを取り除けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に不安や困っていることがあれば電話などで関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する時、ケアプランに沿ってご本人様とご家族様に伝えて対応するようにつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んでもらったり、新聞たたみなど一緒にしてもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の利用料の支払にご家族様が出向い てくださるので、その時に日々の様子をお伝えしたりする機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回ほどドライブに出かけたり、親戚の方と電話でお話しされたり、関係が途切れないよう支援につとめている。	ドライブの時は、自宅前や近所を通るようにしている。馴染みの訪問理容を利用したり、親戚に電話をかけている。年賀状のやり取りを継続し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係がうまくいくように状態に合わせ席替えをしたり、意思疎通が少ない方は様子を見て思いをくみ取るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に来てくださいなどお声掛けをさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の対応を考え、利用者様の行動を熟知し、ご本人様の希望であれば話し合い、可能な限り叶えるようにしている。	普段の会話を通して、入居者の思いや希望、意向を把握し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様との面談を行い、ご本人の生活歴・趣味などを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状態を把握し、ご本人様が出来ることを見つけ、どのように過ごしたいか把握できるように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で毎月、利用者様の担当者会議を行い、話し合う。ケアマネージャーと考察し、家族の意見を取り入れている。	担当者が毎月状況、変化を評価し、それをケアマネージャーに報告し、現状に即した介護計画書が作成されている。しかし、家族へ意向の聞き取りや説明はなされていない。	介護計画書について、家族より説明を受けていないと意見があったため、今後は家族に対しても計画の説明を行い、介護計画書を作成することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアの実践、結果、気づきを記録し、申し送りを行い、情報の共有をする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の要望があれば、話し合いを行い、対応できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回消防署の協力してもらい避難訓練を行ったり、民生委員さんや、市の職員さんとの情報交換をしながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、2回定期往診をしてもらい、ご利用者の状態変化がないか、早期発見につとめている。	かかりつけ医の継続希望があれば支援する。緊急時の病院受診はホームが対応し、家族へ報告を行う。ホームでのコロナ感染はこれまで予防できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が疑問に思った事など、看護職に聞くようにしている。個人の状態や病児がわかるように記録し、医師へ提示している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、支援方法に関する情報を医療機関に促し、電話連絡を通し、情報を得ている。 医師や看護師より助言、サマリーを通して情報を得る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の体制が取れている医師、本人、家族との話し合い。家族との要望があればターミナルケアを事業所でサポートが出来ればと思っている。	ホームでの終末期支援は行っておらず、主治医から家族へ終末期の対応について説明をしている。入居者が重度化した場合は、主治医と家族が話し合い、方針を共有し可能なサポートを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	場合によっては、医師による往診の協力も頂いている。急変された場合、医療行為はできないが、やむを得ない場合は、医師の指示に従い行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練、中でも風水害の対応方法は職員全員に勉強してもらい、理解してもらっている。災害に対しての意識向上、消防用設備等の点検業者を交えて点検を行っている。	年に2回火災避難訓練や夜間想定訓練を実施している。風水害に関しては、事業所本部へ避難した。通報訓練も実施し、防災対策に備えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から運営理念にもあるので、確認し、言葉かけや対応をしている。	入居者への声かけや対応に関して、理念の実施、会議の中での振り返りで、日々意識して取り組まれている。書類は事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思は尊重している。 料理の希望やお風呂、行事の行き先など様々な面でとりいれている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションを毎日行っているが、利用者様の意思確認をし、参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理容を利用している。 服装などは自分の好みで着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつはリクエストを聞いている。	コロナ前は職員と一緒に食材の準備、買い物や片づけを行っていたが、現在は職員のみで行っている。入居者へは嗜好調査を行い、楽しみのある手作りでの食事の提供を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量も1日を通して何回かに分け、摂取していただいている。栄養が足りていない場合は医師の指示で経腸栄養剤を飲用されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後かならず口腔ケアを行うよう、習慣化している。できない所は介助する。夜は義歯の消毒をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないように三時間おきにトイレに誘導し、おむつの方も同じ排泄パターンの習慣を活かしている。	排泄のパターンを把握し、できるだけトイレで排泄行為ができるよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因にならないように飲食の工夫や歩行訓練を個々に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望があればその時に対応している。 皮膚疾患の方など状況を見ながら、入浴の頻度を調整している。	週2回個別に入浴ができるように支援されている。癒しの時間になるように入浴剤を利用したり、いつでも入浴ができるように毎日準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣でその時々状況に応じてお昼寝や、安心して気持ちよく眠れるようにお布団を干したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前と目的を書面ですぐに確認できるようにしている。新しい薬が処方されると申し送りで情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ箱づくりと新聞たたみなど、晴れた日には日光浴をしたりして気分転換を支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節により、行事としての外出や利用者様の希望に沿った外食をしたりして、一緒に取り組んでいる。	コロナ感染予防のため、以前のような外出の機会は減っている。現状、できる範囲での行事ごとの外出や病院受診で外出する機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望があれば、家族と相談して少額のお金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人様の希望があれば気軽にできるようにはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには手作りの貼り絵などを飾ったり、季節の飾りつけなどを飾り、脱衣室の温度には気を付ける	季節を感じるができるように貼り絵や飾りつけが行われている。共用空間は、臭いや汚れはなく、清潔な環境である。ゆっくりくつろげるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に籠りがちになるので、声掛けをし、リビングでテレビを見たり、歌を歌ったり、ご利用者様同士で思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談しながら使い慣れたものや好みの物を活かして過ごせるように工夫している。	持ち込みに制限はないが、入居者や家族と相談し、部屋作りが行われている。常に換気を行い、エアコンは職員が管理することで、居心地よく過ごせるように工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送ってもらえるように見守り、必要な場合だけ介助させていただいている。		